

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

忠

e-mail: shakatsushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目一八の二コーポ楼ヶ谷九〇四 電話(03)3337714649 FAX(03)329915367

振替 〇〇一〇〇一九一五八四三二 労金 中央労金本店 No.1154163

購読料 月額 700円 6カ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言■

政治反動は国鉄「分割民営化」とともに始まった

二三年の闘いの意味を政治面から考えてみる

伊勢 太郎……………2

権力闘争激化は必至

― 民主党「分解」も ―

伊勢 太郎……………4

暗くなるばかりのアメリカ

ポール・クルーグマン……………5

課題 と 論 議

― 組合大会の特徴 (三) ―

黒崎 隆雄……………7

新風を呼び込む組合活動

― 総評解散・連合結成から二〇年 (上) ―

黒崎 隆雄……………11

読者からのおたより……………14

旬刊 社会通信

NO. 1081

二〇一〇年一〇月一日号

二〇一〇年一〇月一日発行
(毎月一日・二五日二回発行)

政治反動は国鉄「分割民営化」とともに始まった

― 二三年の闘いの意味を政治面から考えてみる ―

九月四日、新橋・上野・中央の国労東京地本内三支部有志による四回目の交流会が、王子の岸町ふれあい館において、約五〇名の参加で盛大に行われた。今回の講師は、社会通信社の滝野 忠さん。滝野さんは、「国鉄『分割民営化』と現代政治」と題し、二三年以上にわたって闘われた「国鉄闘争」の背後で進められた二大政党制への動きと我々の課題について講演された。さらに今回は、仙台地本から三名の来賓の仲間が参加。有意義な交流会になった。

「分割民営化」、労戦再編、政界再編 暑いですね、今年の夏は。毎日忙しいけど、バタバタするのではなく、立ち止まって考えることが必要ですね。国鉄闘争も長い目で考えてみたい。今年は国労にとって反マル生闘争四〇年、国労だけが反マル生Ⅱ資本主義的合理化反対だった。伊豆大川の労働学校に通われた方も多いと思う。国鉄闘争が二三年間闘い続けられたのは、労働学校での学習・語らい、そこで作られた仲間愛・団結があったからだ。

まずひとつは、今の政治的反動・混乱は、国鉄分割民営化から始まったということ。一九八一年の第二臨調と一九八三年の国鉄再建監理委員会で分割民営化が本格化した。「国鉄は破産した」とキャンペーンがはられたが、我々は、国鉄には十分資産がある、国労という階級的労働運動、社会党、護憲の解体をめざすものだと言ってきた。そうしたらその後、中曽根（元総理）がそのものだといいことを言った。一九八七年分割民営化がやられ、当時元気のよかった組合が、「国労のようになるな」と物分りのいい労組になってしまった。

第二に、そのかげで労働運動の再編成。階級的労働運動つまり総評解体策動が第二臨調結成前後に動き出している。一九八〇年労働戦線の統一を進める会ができ、翌年、準備会が発足、一九八七年には全民労連ができ、一九八九年今の連合が作られて、総評が解散。こういう流れだ。

そして第三が社会党解体に向けた攻撃。一九八九年参院選は「三点セット+α」（Ⅱ消費税導入、大店法・農業自由化などの規制撤廃・自由化、リクルート政治腐敗）で、土井さんが「山が動いた」と言った自民党の大敗。当時「ウサギ小屋・働きバチ」と言われたが、労働者が貧しいのは今に始まったことじゃない。「自由化」は、従来の自民党支持基盤を食いつぶし始めた。そこが最大のポイント。

一九九〇年に入ってバブルが崩壊し、自民党が分裂。その背後で「松下政経塾」が作られ、日本新党が結成された。総保守陣営は、もう一つ新しい保守が必要と、一九九三年前後から「国策研究会、民間政治臨調」を作る。これにマスコミが触れないのは彼らも参加し協力してきたから。その後「新しい日本を作る国民会議（二一世紀臨

調」が作られる。日経連、連合、官僚、政治家個人、学者文化人、マスメディアといった社会上層部を総集した。政治主導でマスコミに書かせて世論を作り、政治家が思う方向に持つていくという手法。大阪・宮崎の知事を持ちあげているのは二一世紀臨調によるマスコミの力。財政危機、公務員の首切りを言い、目的は戦後憲法体制の見直し。当時やったのは、小選挙区制、社会党をなくして旧自民勢力に飲み込ませて政界を再編した。「マニフェスト政治」とは、資本主義の枠の中で政策論争をやらせるということ。だからそこからはずれる政党は、相手にされない。

夢 私が国鉄闘争にたくしたのは、ひとつは日本の労働運動を再建できる国労の再生、闘争団のプール制自活の中で育てられたオルグ能力。今の政治反動が分割民営化とともに始まったとするなら、長期的な視点から見ると敗北。かろうじて皆さんの戦線で支えられている。

政治解決の視点では、奥田元経団連会長が「国鉄の首切りの手法は経営者にとつて見本」と言っていたから、解決は容易じゃなかったが、不満・雇用を残しながらの解決となった。

眠れる労働者意識 昨年の衆院選と今年の参院選の特徴は、当たり前の労働者の生活を守る勢力が封じ込められたこと。何故こうなったか、先ほどの労働・政界の再編があり、国民の八〇%が労働者なのに労働者らしい考えをしていない、眠らされている。従つてこれをどう揺り動かしていくかということですね。今の生活を見ていくしかない。

二大保守党が作られた。自民党と民主党に違いはない。民主党が政権を取ったことは国労に有利になったが、基本的に民主も自民も政策に違いはないから、政策論争という条件はない。だから選挙では、スキャンダル・政権党の失政が争点になる。

二大保守党政治では選挙での連戦連勝はなくなり、ネジレ国会となる。そこを二一世紀臨調は読み違えていたから、今後は「参院はいらぬ」という論調になるだろう。

これからの政治はどうなるか。民主党は二一世紀臨調に作られた党で、自民党に代わる政権を作ろうとやってきたが、党の中はバラバラで綱領を作れない、その体質は分解を加速させる。菅総理は小沢に「しばらく静かにしてほしい」とケンカを売り、選挙でも負けた。今の民主党の代表選は、小沢・鳩山の保守本流と、菅ら（ベ平連）のイデオロギー・世界観の違いが根幹にあつて、感情論に火がついたもの。あと四〜五年もすれば世代・人脈も変わり、政党の再編・離合集散の流れになるだろう。

最後に、繰り返しになるが、職場・世の中が忙しすぎるけど、立ち止まって考える習慣を身につけたい。多すぎる情報から本物とウソを見分ける力をつけよう。それが伊豆大川であり、ささやかな教育宣伝活動だった。向坂逸郎さんはかつて「三池はよく頑張った、しかし負けた。何故か、しっかりした社会主義政党がなかったからだ」と言われた。国鉄闘争二三年もそう。八〇%が勤労者でありながら労働者意識を失わされている。労働者意識を作るための学習会を持つ必要があるし、俺たち労働者

は成長するということへの確信を頭におきながら仲間を増やし、労働運動を強化していく。

権力闘争激化は必至

― 民主党「分解」も ―

「菅 完勝」の大見出しが九月一五日、九月一八日は「脱小沢」内閣が一面を飾った。民主は「脱イデオロギー」「政界再編」を名目に保守二政党をめざしつくられた。

「脱イデオロギー」とは社会主義排除、「政界再編」とは社会党解体だ。

政治は権力をめぐる闘いだ。政治の中心は政党である。だから、政党は権力獲得を求心力とする。民主党旧自民勢力を中心に有象無象の野心家どもが群れ集まった。自民失政が民主という新しい保守党を権力に押し上げた。○九年衆院選である。旧自民党出身ではあるが世界観をまったく異にした鳩山と小沢がコンビを組んだ。鳩山はドン・キホーテよろしく「資本主義ではあるが資本主義でない社会」を求め放浪し、小沢はマキアヴェツリよろしく慕われるよりも恐れられることを好む人物だ。鳩山は全国民に慕われていたいとする空文句が命取りになった。小沢は最も現実的なカネ。

鳩山政権挫折で権力闘争は第二の局面に入る。菅さんは社民連という小さな党からさきがけ、民主を渡り歩いた「渡り鳥」だ。無風を誰もが予測した民主代表選に嵐が吹いた。鳩山支援で小沢が名乗りあげた。なぜか。

鳩山、小沢にとって菅は民主に借り住まいさせたつもりでいただけの人物。ところが、菅は「政治とカネ」批判の世論を背景に鳩山・小沢排除をはかった。二人は①民主党を生み・育てたオーナー意識、②保守政党意識からそれに我慢ならなかったのだ。

代表選は菅、小沢二人の性格を丸裸にさらけ出した。菅はジャーナリズムに迎合し、小沢はジャーナリズムに逆らった。結果は周知のごとくだ。だが正確には「菅 完勝」ではまったくない。世論調査では菅八〇に小沢二〇支持だが。国会議員は二〇〇対二〇六、地方議員四〇対六〇、党員・サポーター九万対一三・八万。菅支援にひた走ったマスコミも「引き算での菅勝利」と菅に注文をつけた。

一日の組閣は世論向けだ。菅は当面、世論を背に政権運営する他ない。二〇〇対二〇六の国会議員構成、そして今内閣の構成は権力闘争に入ったことを予兆する。民主は権力を求め野合しつくられた。考え方、世界観はバラバラで政権をとったというのに綱領すらつくられないグループ集団だ。それらグループ集団でもっとも多く大臣になったのが旧社会（五）、旧民主（二）の七、自民党からの渡り鳥三、松下政経塾三、こんな大臣構成で内閣は運営できるか。

政治は「政治とカネ」におんぶにだっこでは動かない。政策が問われる。この大臣の顔ぶれで政策の一元化は可能か、幹事長は党内をまとめられるのか。さらには衆院と参院の矛盾を解消できるのか。

バラバラ党は分解を加速させ、政権のゆき詰まりとともに権力闘争は激化するのではないか。国内外情勢の変化によっては政党再編、挙国一致なんてことも。（伊勢）

暗くなるばかりのアメリカ

疲弊する州と地方政府

米国中の灯りが消えゆこうとしている——文字通り。コロラド・スプリングスの節約のために街路灯の三分の一を点灯しないという苦し紛れの試みは、新聞を賑わせた。しかし、似たり寄つたりのことがファイラデルフィアからフレズノ（注1）まで全米で起きたり企図されている。

そして、エリー運河（注2）からインターネット・ハイウェイにいたるまで、かつて交通通信分野で世界中をあつと言わせた国が、今では荒廢の途上にある。いくつもの州と地方政府が維持できなくなった舗装道路を粉々にし、砂利道に戻している。

すべての子どもたちに基礎教育を授けることにおいて世界一であると称賛された国が、教育を後退させている。教師が首を切られ、学習内容は削られている。ハワイでは、学期そのものがドラスチックに短縮されている。すべての兆候は前方に横たわる様々なさらなるカットを示唆している。

我われ米国人には選択肢はないと言われている。すなわち、基本的政府機能はもはや（今の財政状態では）作動しない、というのである。そして、州と地方政府の不況による打撃はひどく資金に窮している、というのも真実である。しかし、政治家たちが何項目かの増税を考えようとしていたならば、ここまで金に困ることはなかったであらう。

一方、連邦政府は少しも金に困っていない。なぜなら、利率わずか一・〇四%のインフレ圧力から免れた長期国債を発行することができるからである。地方政府とインフラストラクチャー・子どもの将来を守るために援助を差し伸べることができるし、すべきである。

二つの選択

しかし、ワシントンはスズメの涙ほどの援助しか行っていないし、これさえ不承不承という始末なのである。（注3）共和党議員と民主党「中間派」議員曰く、財政赤字を減らすことを最優先事項にしなければならない。そして一呼吸おいて、今後一〇年間七〇〇億ドル（約六〇兆円）規模の超富裕者への減税はやめることなく保持しなければならないと宣言するのである。

要するに、主要な議員がその優先的政策を明らかにしているのである。二つの選択肢がある。一つは二%かそこらの裕福な人々にクリントン政権時代に支払っていた税率で納税するよう要求することである。二つは国の基礎をぼろぼろにすることを許すことである——道路の場合には文字どおりに、教育では比喩的に。彼らは後者を選んでいく。これは短期的にも長期的にも破滅的な選択である。

短期的には、州と地方政府の予算削減は経済の大きな障害物となり、高失業率を恒

久化させるといふ悲惨な結果をもたらす。

オバマ大統領のもとでの政府の一方的支出について怒鳴り散らされるのを聞くときには、州と地方政府のことを頭に入れておくことが重要である。その通り、人々が思っているほどではないにしても、連邦政府は巨額の支出を行っている。しかし、州と地方政府は支出を削減しているのである。両者を足してみるならば、唯一大きく歳出が増えているのは失業保険のようなセーフティネット・プログラムなのである。苛烈な不況のためにコストが膨れ上がっているのである。

これが、失敗した景気刺激策について語れるすべてである。政府の景気刺激策を俯瞰すると、刺激となったものを見出すことは困難である。そしていま、連邦支出が迷走し、加えて州と地方政府の大規模な歳出削減が継続されると、(刺激とは)正反対の方向に転じることになる。

しかし、富裕層への課税を低く抑えることも刺激策の一つとなるのではないか？ という意見もある。しかし、あいにくだがそうはならない。教師の職を守ることは、雇用にとって疑いなくプラスである。億万長者にさらにお金を贈与すると、そのほとんどの金が使われずに滞留することになる。

破滅的方向転換への道

そして経済の将来はどうなるであろうか？ 経済成長について我々が知っていることは、よく教育された国民と質のいいインフラストラクチャーが重要であるということだ。新興国は懸命に道路や港湾、学校の質を高めている。一方、米国はそれと逆の方向に向かっていくのだ。

いつも反政府キャンペーンは、浪費とごまかしーキャディラックを運転する福祉の女王への給付金、官僚の繁文縟礼によって駆り出された膨大な軍人ーに反対というフレーズであふれている。しかし、これは作り話以外のなものでもない。正当に要求されるものに対して浪費やごまかしは、これっぽっちも存在しない。いまでは(反政府)キャンペーンは実を結んでいる。我々はいま現実にそのとばっちりを受けている。超富裕な人々を除いてみんなが必要とするサービス、政府が供給しなければ他の誰ももたらしてくれないもの、街灯のある道、運転に支障がない道、そして行き届いた教育などが全般的に危機にさらされているのである。

ゆえに、長期にわたる反政府キャンペーンの結末は、破滅的な方向転換に通じているのである。米国はいま街灯もなく未舗装のどこにも通じていない道を突き進んでいる。(New York Times 論壇、ポール・クルーグマン 二〇一〇年八月一〇日付け)

注1 Fresno・カリフォルニア州中部の都市。果物の主産地(『ランダムハウス』)

注2 ニューヨーク州アルバニーとバッファローの間にあつてハドソン川とエリー湖をつなぐ、一八二五年に完成、全長五四七キロ(『ランダムハウス』)

注3 日本経済新聞八月一日付け夕刊によると、一〇日に下院は上院が先に可決し

ていた州政府支援法案を可決し、オバマは即日署名した。規模は二・二兆円で、これにより州の教員や消防士の雇用をできるだけに維持することを目的としている。共和党は全員反対、夏休み休暇に入っていた議員を呼び戻して採決。クルーグマンはこれでも不十分と論じている。

課題と論議

―組合大会の特徴(三)―

労組大会を知る手段はたいへん少なくなりました。商業紙が伝えるのは政治関係がらみのみ。記者からの質問はここに集中し政治部が幅をきかせています。

組合大会は委員長あいさつがすべて。民間大企業組合では企業連の代表が注文をつけるだけで、現場の声が直接あがることは少なくなりました。こんな中、どんな議論がおこなわれたのか、みなさんから報告してほしい。

「車偏」（交通運輸産業）のAさん、JR三労組や私鉄総連といった鉄道関係労組から口火切って下さい。

一〇四七人事件「解決」と三労組

A まずJR三労組から。焦点はまず一〇四七人解雇事件の政治和解、二つは一年間に七名のグループ会社・協力会社労働者が死亡したり続発する列車事故をめぐる安全问题、三つは交通政策の一環とされているJR三島会社（四国・九州・北海道）と貨物会社の経営問題、四つはこれにかかわっての高速道路無料化、五つはJR連合が「国鉄改革の残された課題」という革マル派浸透問題とJR労働戦線をめぐる問題だ。

国労大会は一〇四七人事件の政治解決に自信をもち国労運動前進の道をさぐることが最大の課題だった。国労方針は「全面解決に向かう重要な節目。最後の『雇用問題解決』まで緊張感をもって機敏な取り組みと対応を進めていく」というもの。六月に開かれた「政治和解案」を承認する大会方針案に「JR産別の企業内労組として社会的責任を自覚した未来志向の国労運動を見据える」とあったことが、「国労を企業内組合と規定するのか」と論議をよんだ。大会方針は「国労の組織基盤は国鉄を分割・民営化し、新たに発足したJRという企業体を中心として組織を形成した単一組織」と、「引き続き単一組織としての優位性を活かしながら、健全な労使関係を築く」とされた。これと関連するのが、JR労働戦線の「三極状態」の中で、国労はJR連合等との関係をどうするか。JR連合は国労に『「JRにふさわしい」労働運動への転換、民主化闘争への結集」を求め、JR総連は『「人道的解決」に理解は示すが、その陰で国鉄改革の歴史的事実が歪曲されることを懸念』。JRに雇用を受け入れるよう求めていることには、『「人道的解決」の範ちゅうから逸脱、歴史への冒涇」との姿勢だ。

「分割民営化」 負の遺産

JR連合が強調する「民主化闘争」について、JR連合方針案は「国鉄改革の組織面での最大の残滓であるJRへの革マル派浸透問題を、JR発足二五周年（二〇一二年）、JR連合結成二〇周年の節目の年までに解決しなければなりません。本年度は、民主化闘争の『決戦の年』と位置づけます」とする。JRから革マル派排除し、三極構造を打破し、JR連合への組織総結集を実現したいとするものだ。

国鉄分割民営化の負の遺産は組織問題にとどまらない。いわゆる三島・貨物問題がそれだ。これら四会社は政府の財政支援で維持されており、見通しうるかぎり株式が上場されることはない。しかも、支援策は法的に二〇一二年が期限とされるから、四会社の経営問題はJRグループにとっても死活の問題となる。そこに、市場の収縮、少子化が大きいのしかかるばかりか、高速道路無料化が鉄道・バス事業を直撃する。そして今大きな問題になろうとしているのが北海道、九州での新幹線網拡大と並行在来線問題がある。

「分割・民営化」は鉄道事業者間の競争をはげしくしたばかりでなく、市場収縮はJRに関連事業―ホテル、不動産、流通・サービス―拡大を強制する。巨大なターミナルビル、駅中商店街は地域社会を根本から破壊する方向に作用していることは誰もが認めていることだ。

「職場からの労働者の団結を抵抗で」との姿勢は弱くなっている。民主党政権誕生は政策・制度の比重を高めJR総連は先般参院選で組織内候補を出したのもこのゆえだ。

論議と交錯

司会 国労大会での論議はどうだったのか。

A 方針論議で三三人が発言。現場の士気はいぜんとして高い。しかし、気になる発言も少なくない。たとえば四国の代議員が「経営状況は、単に経営努力や社員のがんばりで経営が好転する状況ではない」「ナショナルセンターについてどう対応しているのか」、「春闘での賃金交渉や締結に、単一組織としての本部が今後どのようにして指導性を発揮していくのか」と述べていた。

もっと深刻なのは新幹線の代議員が、方針案で強調する「仕事総点検運動」について、「国労がチェック機能となるのは当然。しかし、従来の点検・摘発、告発、責任追及という形にこだわっているのは、職場の中心に座れない。みずからが仕事で必要な知識・技能、それに必要な教育は何かということを、自分たち自身の仕事を振り返る中で作っていく必要がある」と発言していた。これって、経営参加でしょ。

はげまされる発言の方がむろん多い。もっとも共感を覚えたのは、「二三年以上闘ってこれたのは、若いころ労働学校で学んだ『資本家と労働者は対立している。労働者は団結して闘わない限り生命も権利も守れない』という、労働者思想があったから」

との視点から、「国労の歴史は、企業内労働組合の弱さを認識し、春闘など産業別統一闘争とそれを支える職場闘争により労働者が持つ企業意識を克服し、労働者階級の解放に向けて資本と闘う道を歩んできた歴史。JRとなり国鉄時代以上に企業内に労働組合が閉じ込められやすくなっており、本部にはそうならないような意識的な指導が求められている」と発言したことだ。

焦点は「第二次中期賃金方針」

司会 私鉄総連は組織内候補が落選し、意気上がらぬ大会となったようですが。

A 大会は委員長のお呼びあいさつで始まった。しかし、私鉄らしい議論が展開された。方針案にはのべ三四人がじつになまなましい発言してた。

今大会焦点となったのは昨年職場討議にふされた「第二次中期賃金方針」だった。その内容は五〇一〇年をみこし①私鉄・バス・ハイタク労働者のあるべき賃金のあり方の明確化、②早期に定期昇給制度を基本とした賃金制度確立、③賃上げゼロをなくし賃金水準を高めることを目的とするというもの。

賃上げの考え方として一人平均方式ではたたかうことが難しくなったから、将来の方向としては「電機連合中心にJCが推進している」（筆者）個別賃金方式への転換をめざすとし、「めざす賃金水準」への考え方として①最低水準（全国平均の標準生計費・四人）、②平均水準（連合主要組合・登録組合の全産業平均）、③到達水準（企業規模一〇〇人以上）を三つのポイント（三〇、三五、四〇）でめざす。年間臨給では業績による成果配分を含めて、「年間五ヶ月念頭に要求を立案する」と、指標に①最低水準（三ヶ月）、②目標水準（五ヶ月）、③到達水準（五ヶ月以上）を掲げています。

個別賃金方式は一言でいえば「底上げ」要求への転換でしかありません。ですから大会では反対論として①指標の「水準」を越えている単組は、経営側に臨給引き下げの根拠を与え、下方平準化につながる、「業績による成果配分」では生活給が不安定になる、②本部は「引き上げるための方針・指針ではない」というが簡単ではない。また賛成論として①臨給の実績が二ヶ月や三ヶ月の組合も数多くあるなか、現在の「最低五ヶ月」は大きくかけ離れ、迫力ある交渉とはならない、②三段階指標提起は厳しい中小の実態から取り組みやすい方針を提起したが激突した。修正案が出されたが挙手で修正案賛成八四で否決された。ちなみに私鉄総連の代議員定数三四五、出席二九八。

私鉄総連の多くは中小企業、とりわけバスにいたってはだ。だから高速道路無料化では、「高速バスの収益で路線を維持してきた生活路線が、廃止や減便せざるをえない状況になっている」と政策転換を求める声が相次いだ。

春闘再構築、辺野古基地建設反対に象徴される憲法擁護・平和運動強化を求める声は私鉄総連ならではだ。この数年の大会で代議員発言単組がせばまっていることは一つの不安要素だ。

政治にふりまわされて

司会 J P 労組はかつては「権利の全通」といわれた全通とそれに対抗してつくられた全郵政が〇七年十月統合し、組合員二二万九〇〇〇人で出発してつくられた組合。今年は結成から二回めの大会です。郵政にはこの他全労連系の郵産労、全労協系の郵政ユニオンがあり、兵庫県では郵政非正規ユニオンが活発に活動中だ。

Bさん、郵政関連労組の特徴を願いました。

B 小泉の郵政民営化から政治に揺さぶられ続けている。小泉は民営化を命じた。しかし民主党政権で見直し。国家そして官僚制度の本質を知らない民主党は「脱官僚、政治主導」なんて混乱にさらに拍車をかけるばかりだ。政治って政治家の「指導」で動く、官僚は政治家の判断、指示なしに動けない。「上」からの指示はなきに等しい。しかも指示は朝令暮改。これじゃ組織は動かない、動けない、混乱ばかりが郵政現場の現状じゃないか。

まず大会での委員長あいさつに、J P 労組の課題をみたい。大会(六月九—十一日)の時点では①組織内候補者(前書記長)の必勝、②民主党には「国民の生活が第一」の具体化、③郵政改革では見直し五原則(利便性、公益性、一体性、雇用確保、社会還元)、二つの改革(お客さまの利便性の向上、郵政事業の成長と発展、雇用の安定と労働条件確保)を政府に求め、郵貯・かんぽへの「限度額設定」解除、④三〇万組織建設とユニオン・ショップ協定早期締結、⑤期間雇用社員の正社員化、⑥宅配便事業統合にかかわる雇用と労働条件といった問題だ。

大会での討論者はのべ二八人。委員長発言はともかく、現場は郵政四会社の利益拡大運動に四苦八苦の有様で①よくいわれる自爆、②紛失・誤配、③交通事故、④要員不足、⑤強権的労務管理への不安、不満、そして要望が相次いでいる。スローガンの「福祉型労働運動」とはまったく相反する職場実態にあることが痛烈に訴えられているのが特徴だ。

これからに先送りされているのが人事給与制度とJ P E X。前者では「頑張った者が報われる制度の実現を求めていく」としているが、みんなががんばれば、評価基準は高まるだけのことだから、結局、労働者にとってはシジフォスの神話みたようなものにならざるをえない。これが資本主義社会における生産性向上運動の行き着く先だ。

司会 郵産労、郵政ユニオンの動向はどうか。

B 郵産労は①「郵政民営化」の抜本の見直し、②非正規社員の待遇改善、③郵政ユニオンの組織統一協議前進を掲げる。①については、「分社化見直しで三事業一体経営を行い、郵便局ネットワーク維持できる措置」というもの。②については亀井大臣の「十万人正社員化」を背景に正社員化と均等待遇の要求、③は綱領、新組合の名称、ナショナルセンターの扱い、④本部事務所についてさらに協議するとした。

大会に出席した郵政ユニオン委員長は、①協力・共同は前進、②互いの意見を尊重すれば統一は必ず実現と、統一協議への期待を示した。

(つづく)

新風を呼び込む組合活動

―総評解散・連合結成から二〇年（上）―

ユニオン運動の誕生

日本労働運動は昨年、総評解散・連合結成から二〇年という節目を迎えましたが、各地で奮闘してきたコミユニティ・ユニオン全国ネットワークの歩みは、日本労働運動のこの二〇年にとって、きわめて重要な一側面をなしてきたと言って良いと思います。二〇余年前、日本の労働組合は「労働戦線の統一」を巡って論争し、より大きな力をめざして「総評解散・連合結成」を選択しましたが、より本質的に問われていたのは個々の労働組合のあり方だったのだと思います。しかし、日本の労働組合はこの二〇年、雇用構造など労働環境が一変したにもかかわらず、ほとんど自らの改革には取り組んできませんでした。その結果、団塊世代の退職とともに企業内組合の希薄化、瓦解とも言える状況を広げてきました。

他方、二〇年前のこの時期に誕生したのが、ユニオン運動であり、全国ネットワークでした。パート、派遣、外国人などの非正規職労働者、そして労働組合のない労働者一人ひとりが抱える問題を取り上げ解決しようとするユニオン運動は、社会的な存在として次第に注目を集めるようになり、「格差」・「貧困」が社会問題となる中、二一世紀労働運動の「主体」としても期待されるようになっていきます。

一九八〇年代半ば、増え続けるパートタイマーをはじめ、既存の労働組合に入れないう労働者のための「開かれた労働組合」として生まれたユニオン運動は、地域労働運動を守るうとする活動家たちを中心とした試行から広がりしました。九六年からは連合も地域ユニオンづくりをはじめ、全労連も二年から、そして今では様々な人たちがユニオンづくりに取り組むようになりました。それは、労働組合の組織率が低下を続け、いまや一八%、企業規模一〇〇人未満ではわずかに一・一%でしかない状況をむかえ、一七〇〇万人、全雇用者の三分の一を超えた非正規職労働者を組織せずして労働組合の影響力を保持することができず、劣悪な労働条件下に置かれている非正規職労働者の差別問題を避けてもはや労働組合の正義が成り立たなくなっているからです。しかし、九六年の阪神大震災での大量解雇に対してと同様、〇八年秋からの「派遣切り」に対しても、支援の手をさしのべた企業内（正規職）組合はほとんどなく、それらに対して取り組んだのはユニオン運動を中心とした地域労働運動でした。

全国ユニオンの結成と『CUMJ』の復刊

全国ネットは、三重・賢島集会（二〇〇一年）で全国ネットの連合加盟を提案しましたが、連合参加の意義は理解されつつも、各ユニオンの立ち位置や財政の状況からネットワーク全体での参加には無理があり、大阪集会（二〇〇二年）で有志ユニオンによる連合加盟組織づくりに方針を改め、〇二年十一月に全国コミユニティ・ユニオン連合会（全国ユニオン）が結成されました。

ここに、コミュニティ・ユニオン運動はネットワーク機能としての全国ネットと産別機能としての全国ユニオン、二つのカタチを持つことになりました。

一九九〇年に結成された全国ネットは、四〇ユニオン約一万人で出発しましたが、加入手続などはないまま、全国交流集會に参加はするが、会費は払っていないというユニオンもありました。県総評や地区労によって結成されたユニオンは、総評・地区労の解散から連合へという組織再編のもとで、組織の変更や自立を迫られ、各ユニオンも一〇年以上が経過して組織・運動を拡大しているところとそうでないところ、交流がほとんどないユニオンもありました。

こうしたなかで、ネットワークとしては、改めて全国のユニオンが情報の共有化をはかり、求心力を高めることが求められました。そこで、まず、はじめに取り組んだのが情報交流紙『CUNN』の復刊でした。『CUNN』の第一号は九一年二月にB5版八ページ立てで発行されましたが、九五年四月の八号を最後に発行されなくなりました。これに替わって九九年一月から『CUNNEWS LETTER』（資料集）が発行され、日常的には『CUNN FAX 通信』が送られるようになりました。しかし、『CUNN NEWS LETTER』も〇一年まで八回で途絶えました。このような経過をたどって、〇二年一〇月の復刊号となり、〇九年一〇月で三三号になっています。『CUNN FAX 通信』は〇六年から『CUNN メール通信』に替わり、現在に至っています。

この年、全国ネットのホームページを神戸ワークーズユニオンのホームページに開設し、全国のユニオンの連絡先一覧を載せ、各ユニオンのホームページにリンクさせました。全国ネット紹介のリーフレットも（日本語版・ハングル版）作成されました。ホームページは今期から連合福岡ユニオンが担当し、全国ネットとして独立のホームページを開設しています。 <https://sites.google.com/site/cunnet/>

他方、二〇〇三年から全国のユニオンの組織と活動状況についてアンケート調査をはじめ、まとめたものを『コミュニティ・ユニオン〇九全国の組織と活動』などとして各ユニオンに配布してきました。その他、春期（春闘）の取り組みや、メーデー、自治体議員などについても調査し集約結果を紹介してきました。

全国交流集會

全国ネットで最も大きな役割を果たしているのは、何といっても全国交流集會です。各分科会などを通したノウハウの交流はもちろん、全国でがんばっている仲間と再会して元気をもらう場として不可欠の機会となっています。青森県弘前市で開かれた第一回コミュニティ・ユニオン全国交流集會には一〇〇人ほどが参加。その後、ブロック単位に全国を回り、参加者を拡大しました。九四年の第六回秋田集會からテーマが掲げられるようになり、そこに地元ユニオンの特徴やその時期の課題などを見ることができず。

〇三年の横浜集會「パワー全開 ユニオン力」には史上最多の五〇二人が参加し、三方国語の同時通訳も配置されました。〇四年の北海道函館集會「平和をつくる労働運動を」は、函館には札幌地域労組の支部があるぐらいでしたが、連合渡島・函館の

全面支援のもとに三一五人が集いました。○五年の福岡宗像集会「元氣たい！やる
ったい！楽しかたい」には四二八人、準備のための各部会が前年から設けられ「組
合員総出」の見事な受け入れで演出しました。○六年の秋田湯瀬集会「ユニオンレ
ッサンス みんなが主役の集会」では、『反骨のジャーナリスト』九一歳のむのたけ
じさんのパワーに圧倒されました。○七年奈良集会是、水平社発祥の地として「人の
世に熱あれ！ユニオン運動にパワーを」が掲げられました。○八年千葉集会「ディ
ーセントワークへの挑戦」では、全国ネット二〇年をスライドで振り返りました。
○九年十勝集会「人らしく生きる力！もつとユニオン運動を！」は、道東の地に国
労闘争団の仲間が地域労働運動を広げ、そのなかで結成五年四〇人ほどのユニオンが
支えられ頑張っている姿が印象的でした。

地方ネットの運動

コミュニティ・ユニオン運動は全国ネットに結集するとともに、地方ネットワー
クをつくって運動してきたことにも特徴があります。

最も早く結成されたのは北海道で、連合結成前の全道労協によって一九八九年に全
道パート連絡会が結成されましたが、全道労協解散後ネットワークは結成されていま
せん。つぎに結成されたのが一九九一年二月の兵庫県パート・ユニオンネットワー
クで、パート一〇番に取り組む地区労とユニオン、自治労臨職評によって結成されま
した。現在は、六ユニオンが参加し、臨職評は四三単組となっています。同じ年九月
に大阪・京都で活動するユニオンで関西ネットワークが結成され、現在は奈良も含め
て一〇ユニオン、それに自治労大阪公共ユニオンも参加しています。

九州では、一九九二年に福岡・大分・宮崎のユニオンで九州ブロック交流集会在開
かれ、その後結成された鹿児島・熊本もユニオンも参加して毎年交流集会在開かれ
ています。

首都圏では、一九九三年にネットワークが結成され、東京・神奈川・千葉の十六ユ
ニオンが参加しています。このうち、神奈川では九七年に神奈川ユニオン協議会が結
成され、現在六ユニオンが参加しています。

東海では、一九九九年に三重・愛知・静岡の三ユニオンでネットワークが結成され、
現在、岐阜の未加盟組織を含め七組織による交流をすすめています。

東北では、一九九八年に秋田県内の四ユニオンで秋田県ネットが結成され、二〇〇
二年の全国ユニオンの結成にもなって全国ユニオン秋田として活動するようになり
ました。そして、○六年の秋田県湯瀬での全国交流集会在前に、秋田の六ユニオンと
岩手・山形のユニオンによるネットワークが結成されました。

各ネットワークでは、相互支援、ホットライン、キャラバン行動、事例研究会や講
演会、交流合宿などが各地の特徴を生かして取り組まれ、首都圏ネットの一日行動で
は全国のユニオンの本社抗議行動なども組み込まれた取り組みがされています。中四
国での交流と北海道でのネットワークづくりが課題です。

(黒崎 隆雄・神戸ワーカーズユニオン・つづく)

◇ 読者からのおたより ◇

よくがんばった 『社会通信』で老いることを食い止めてもらっています。よくがんばって二十四年。国労魂は生きていた。ご家族の素晴らしい闘いに敬意。一番大事な雇用獲得までOBとして真に気を引き締めます。

（北海道・S）
編集部より 国労の仲間たち、とりわけ闘争団・家族のみなさんはいしたものです。第二の人生をさらにたくましく。そのためには雇用です。

もうひとふんばり 長い間、ご指導とご協力をいただき、本当にありがとうございます。全面解決へ、もうひとふんばりがんばります。

（名寄・T）
編集部より みなさんの闘いに敬意です。私なんぞ側でウロウロしてただけ。

継続は力なり といわれます。貴誌の不断の闘いに衷心より敬意を表します。これからも反権力の道標としてがんばって下さい。くれぐれも健康にはご留意して下さい。

（徳島・K）
編集部より Kさんはじめ、読者の皆さんの励ましのおかげ、『通信』十一月一日付でマル三十三年に。二〇一一年に入れば足かけ三十五年です。感謝。

よろしく 入金、たいへんおそくなりました。またよろしくお願いします。

（佐賀・H）
編集部より ご入金、ありがとうございました。こちらこそよろしく。
残された課題 JR不採用問題は、最高裁での和解を受けて、金銭的解決は図られましたが、最大の課題と要求である「雇用」問題。民主党代表選以降、年内までが勝負であり、最大の山場となると考えます。完全解決まで奮闘する覚悟です。

（国労留萌闘争団 団長 葛西 忠雄）
編集部より これから「第二の闘い」とにかく健康第一です。

正社員を この間、定年退職者・嘱託者の補充は、パート者や委託。今後、定年退職者が増加してくる。新規職員の採用者が少ないために、ますます中高齢者が多くなり、平均年齢が高く上昇。病院は、人件費の抑制だけでは、将来の不安と、経営改善がされていかない。

以前は、マンパワーが重要視されて、人員の確保をしてきたが、またパート者の増加。（みんな）編集部より 看護師さんの労働条件、すさまじい。にもかかわらずテキパキ働いていらつしやる様に敬意です。とにかく健康を。

ご笑覧を 残暑御見舞、ハガキありがとうございます。書いている時と、呑んでいる時のみ、暑さを忘れるのです。ユニオンなど「地方」はウザいですが、豊穡ではある。（神は細部に宿る「Hegel」の如し）八月下旬と九月上旬に、八ヶ岳方面などに一泊行。

（茨城・M）
編集部より よくお書きになる。アルコールが燃料であることは車も一緒ですね。

「ネジレ」どうみる 衆参のねじれがあたかも悪いように言われますが、もともと衆院、参院は違えます。選挙で与党、野党の議席が変化したら、それに合わせて知恵を絞り、妥協も含めて習熟すればいいだけのことです。ただ自民、民主、「みんな」の政策から見れば、消費税増税、法人税引き下げ、沖縄への新基地建設、日米同盟の強化、比例区などの削減で小政党を排除、道州制と共通しており、何のねじれもありません。金持ちや大政党だけが世の春を満喫していますが、これと対抗するためには平和憲法、暮らして共闘できる政党、団体、市民の総結集しかありません。これからも大同団結を呼び掛けたいと思います。

（大阪茨木市議 山下 けいき）
編集部より 「ネジレ」解明！すばらしい。

人生これから 鉄道再雇用二年、三月で会社と手を切りました。人生これから闘い。（埼玉・U）
編集部より 人生約八〇年。自由な時間はいっぱい。友人には趣味を「専門職」にされたかたも。また若者と学習活動に精出す人も。

全面解決まで とりあえずは一段落というところですが、雇用がなければまた路頭に迷ってしまう。全面解決までもうひとふんばりします。

（音威子府・杉山 均）
次はありますが、次の担い手作りにがんばっている毎日です。とりまくきびしい情勢の中であります。猛暑が続く中、連日の活動たいへんご苦労さまです。とりまくきびしい情勢の中です。

（埼玉・K）
編集部より ご購読に心から感謝です。私も若い仲間と学習会。
職場川柳 この職場 飛び交う怒号に 未来なし／「不採用」 解決政権 今ピンチ／

教育も 過ぎればパワハラ 逆効果／四連夜 還暦親父にや きつすぎる／
編集部より 国労仙台地本のある分会機関紙にのせられた川柳です。